

**石田梅岩(梅巖) 石門心学の祖。町人のための思想を確立、その普及・実践に献身、社会教育やボランティアを先駆。**

いしだばいがん

出世景清初演1685 = 丹波国桑田郡東懸村で、中農浄心の子に生まれる。

生類憐令始・1687 = 2歳：  
厳格で信心深い父に育てられ、

芭蕉+師宣没 1694 = 9歳：

生類憐令頂点1695 = 10歳：はじめて京都の商家に奉公に出る。

・・・ 1699 = 14歳：家運の傾いた商家から父の許しを得て郷里へ帰る。このころにいたり、幼年より理屈老で友人にきらわれ、意地の悪かったことにふと心付き、悲しく思い反省する。

赤穂浪士切腹1703 = 18歳：

富士宝永噴火1707 = 22歳：父母のもとを去り、ふたたび京都に出て、上京の商家黒柳家に奉公する。

徳川綱吉没・1709 = 24歳：

乾山陶器店・1712 = 27歳：

徳川吉宗將軍1716 = 31歳：父権右衛門没す(71)。

・・・ 1719 = 34歳：\_この頃から人性について不安を覚え、諸家を聞き巡る。

小石川薬園・1721 = 36歳：

近松没・・・ 1724 = 39歳：母の看病に故郷へ帰る。在郷看病の間に、\*年来の疑問忽然として散じ、性は天地万物の親と知る。

・・・ 1727 = 42歳：この頃、\_主家奉公を辞し、諸家の講釈を聞き、「性理」の問題に没頭す。小粟了雲について学ぶ。

徂徠没・・・ 1728 = 43歳：師より叱責され、さらに思いを積む。

梅岩心学始・1729 = 44歳：\*忽然として新しい悟覚を見得するという。この歎びを分つべく、町人に町人の道あることを知らしめんと、はじめて講席を開き、無東情、聴講自由の公開講義をはじめる。

・・・ 1730 = 45歳：

享保大飢饉・1732 = 47歳：

日本における社会教育の草分けとなった。時世の中で卑しめられていた商人を市井の臣とし、社会的職分遂行の上では商人も武士に劣らないと主張するとともに、商人の反省を求め、悪徳商人を非難して商業道徳の確立を説き、商取引は1対1の対等の場で自由に行われねばならぬと主張した。

悪鑄再開・・・ 1736 = 51歳：母たねが死去。

・・・ 1737 = 52歳：転居。これより以前、\*京阪および周辺の地に随時出張、いずれも30日・50日の連続講義を行なう。月に3回商家の主人たちを集めてゼミナールを開き、弟子の養成に努めた。

叩舟船出没始 1739 = 54歳：\_主著「都鄙問答」はそのときの問答の抜粋である。

・・・ 1740 = 55歳：\_日々、門人らを語り米銭を集め、所をかえて上京、下京の貧窮者に施行を行なう。

\_この拳にならう老商が諸所にあらわれるなか、

梅岩没・・・ 1744 = 59歳：「儉約育家論」を刊行。\_終生独身のまま、没した。